

育苗の手順

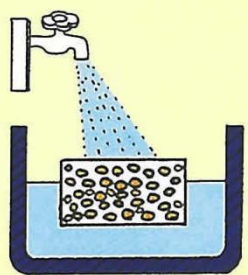
比重選

未熟粉を取り除く



水洗い

発芽障害をおこさないように塩分を洗い流す



水切り

水洗い後、水切りして網袋に入れる



粉は袋の50～60%以内

種子消毒 ※ 生物農薬と温湯消毒は、単独処理よりも体系処理を推奨

【薬剤防除】

〔浸漬消毒〕
200倍24時間浸漬(代表例)
効果を高めるために消毒液温を10℃以上に保つ



〔湿粉衣消毒〕
種粉重量の0.5%
湿粉衣

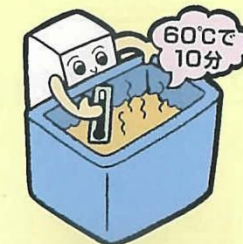


【生物農薬】

催芽時処理(代表例)
200倍24時間
温湯処理や食酢添加を併用し防除効果を高める

【温湯消毒】

60℃の温湯に10分浸漬
食酢添加処理で防除効果を高める



浸種

水温は10～15℃を確保
積算温度100℃・日以上になるまで浸種

水温	日数
10℃	10日間
15℃	7日間



催芽(芽出し)

芽の長さはハト胸から2mm程度に揃える



床土準備

〈加工床土の場合〉
1袋20kgで4箱分利用できる(覆土含む)

床土入れ

床土は2cmの厚さで均一に詰める



カビ対策

予防薬剤の散布(生物農薬消毒の場合は除く)

かん水

加工床土の場合は1.1～1.3ℓ



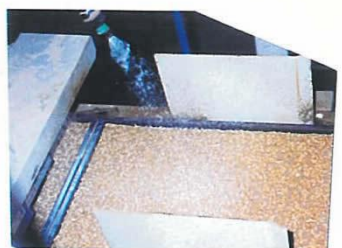
播種

うすまきと均一な播種で、ガッチリ苗に



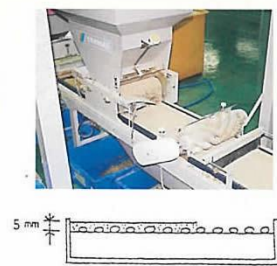
細菌病対策

薬剤を播種後かん水するノズルの高さを調整し均一に散布する



覆土

1箱当たり約1kgを種粉がかくれる程度(厚さ5mm)に均一に



出芽

育苗温度30℃を厳守し、日数2.5～3日間で、芽の長さ1cmを目安とする



平床準備

排水を良くし水平に努める



搬出

・芽長が1cmを目安に、原則として早朝に行う
・かん水は覆土を落ち着かせる程度とし、緑化期までの葉ヤケに注意する



緑化(2～3日)

〈ハウス〉
・第1葉が展開したらすみやかに被覆資材をはずす
・水不足による葉ヤケに注意し、的確にかん水する
・晴天日はハウス内の温度が30℃以下になるように管理する

〈トンネル〉
・遮光資材を使い、温度、日照を調節する

硬化(13～15日間)

・水不足による葉ヤケに十分注意し、的確にかん水する
・高温での育苗になるため、換気を徹底し苗の徒長を防ぐ



田植

